



欄に数値またはコメントを記入

## 1. 建物概要

建物名称	(仮称)長泉町下土持分譲マンション 新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	------------------------	-----	---	--------	----	-----

## 2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.9 /5		がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.5 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.7 /5		がんばろう
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.1 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上                  ふつう 3点以上                  がんばろう 3点未満	

## 3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		内訳対応項目		
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	2.9	
■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ②共用部:U値2.5以上 住戸部:U値2.0以上確保  ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑地帯を設け、環境に配慮した。  ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦大半の住戸で日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4相当である ⑧ほぼ全体の住戸で外皮等に2方向面しており、有効な採光・通風が確保されている。 ⑨[BEL]=0.91 ⑩設備毎の取扱説明書が入居者に手渡されている。  ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水型の衛生設備を採用する。  ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	2.5
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的に利用する側の普段のメンテナンスし易さを考慮した設計とした。 耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長く出来るよう努めた。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点	2.7
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲階高2.97m、天井高2.5mを確保、主室を長方形とし、入居者が使いやすく、快適な空間作りに努めた。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑建物周囲に視角空間をつくらぬようにし、防犯性に配慮した。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ㉑	⑱ ⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上		
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	2.1	
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) ㉒周辺に溶け込むデザインとし、環境に配慮した。 ■敷地外環境対策 (㉔持続可能な森林から産出された木材/㉕温熱環境悪化の改善)	Q-3 1 ⑳ 2 ㉒ 3 3.2 ㉓ LR-2 2 2.5 ㉔ LR-3 2 2.2 ㉕	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 ㉔ 持続可能な森林から産出された木材 ㉕ 温熱環境悪化の改善		

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)長泉町下土狩分譲マンション	階数	地上14F
建設地	静岡県駿東郡長泉町下土狩209-2	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、指定無し	平均居住人員	147 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2022年9月8日
敷地面積	2,071 m <sup>2</sup>	作成者	鈴木浩峰
建築面積	640 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	5,019 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 94%  
③上記+②以外の 94%  
④上記+ 94%

92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.9**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.2

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
・これはCASBEE静岡(2016年版)による評価です。	特に無し	
<b>Q1 室内環境</b> ・サッシの遮音性能を高め室内環境に努めた。 ・内装材はF☆☆☆☆を使用し、シックハウス対策に配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> ・居室の天井高を2.5m確保。 ・標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的に利用する側の普段のメンテナンスし易さを考慮した設計とした。 ・耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長く出来るよ	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・建物周囲にできる限り死角空間をつくらないようにし、防犯性に配慮した。 ・緑地帯を設け、環境に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b> ・外皮性能の向上及び1次エネルギー消費量を抑える様努めた。 省エネ届 建物全体BEI=0.91 共用部BEI=0.61 ・LED照明の採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・節水型の衛生設備を採用する。 ・再利用可能な部材、リサイクル材などの採用に努めた。 RC躯体と仕上げ・設備配管・配線等、工種別の解体が容易にできるようにした。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・駐輪場・駐車場の台数の確保、導入路・配置等に配慮した。 ・夜間における敷地内歩行者・自転車のための照明を設置する。 ・出入口付近での安全を確保する為、出入口付近では歩行者・車両共に十分な見通しを確保する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される